

新春を町内みんなで祝い、新縁に子どもたちの成長を喜ぶ

～五個荘平阪町「元旦のつどい」と「やいごめもらい」～

五個荘平阪町は、箕作山山麓に位置し、人口119人、33世帯で高齢化率は五個荘地区のなかでは比較的高い約38.7%の自治会である。平阪町では、他の自治会にはない「元旦のつどい」と、他の自治会では行わなくなった、「やいごめもらい」が子どもの日に行われている。

1. 元旦のつどい

五個荘平阪町（以下、平阪町）の元旦の朝は、八幡神社にお参りをしてから、隣近所に新年の挨拶に周っていた。しかし、各自が動くため、挨拶に行っても出会えないこともあった。

そこで、「元旦にはみんな一緒に集まって新年の挨拶をしよう」と始まったのが「元旦のつどい」である。

そして、せっかく集まつたので記念撮影をすることになったのである。

この行事がいつから始まったのかは記録にない。

平阪公会堂（自治会館）には、平成7年くらいからの写真が飾られている。『平阪字誌』（昭和61年発刊）の「町づくり」のページには「新年のつどいについては、毎年ほぼ同じ内容で実施されているため省略する」と記載されており、これを元旦のつどいと考えると、昭和61年

(1986)には行われていたのではないだろうか。

平阪町の方々が元旦の朝9時に八幡神社に集合し、「元旦のつどい」は始まる。

「平阪まちづくり委員会」の会長の司会・進行のもと自治会長が新年の挨拶をする。その次に、その年の春に中学生になる小学校6年生の子どもの代表が新年の抱負を述べる。そして、御神酒で乾杯し、するめをいただく。

そして、全員で記念撮影をし、お地蔵様と小松寺、明珠寺の2つの寺院をお参りするのである。

令和2年（2020）度の自治会長、佐生伊三夫さんは、「元旦に一同に会するので、みんなで挨拶できます。字全体の記念撮影になっています」と話す。

2. やいごめもらい

そして、もうひとつ他の町にはない、あるいは



八幡神社



五個荘平阪町自治会館

はすでになくなった行事が「やいごめもらい」である。「やいごめもらい」は、『平阪字誌』によると、次のような行事である。

苗代づくりの後の5月5日に、苗代に雑草の芽が出ないように、苗がうまく育つように願いを込めて、水口にお供えをする「たねやすみ」をする。

この日に苗と菖蒲をちまき・塩鰯・筍・ワカメなどと一緒に箕の中に入れ、各家のオイエ(農家の広間)に供える「たなかみさん」を行う。その残りのちまきを、煎ったり、焼いたりして加工し、6cmぐらいの棒状にしたお菓子を作る。このお菓子が「やいごめ」である。

そして、子どもたちが「たねやすみ」の際に「やいごめ」をもらいに各家を周るのである。

大正10年(1921)頃から昭和20年代には、子どもたちは「ヤイゴメオクレ、コメオクレ、イッタラカエスデヨケオクレ」と言いながら各家を周り、カリントウという黒砂糖を表面に塗った6cm程の棒状の菓子3~5個を自分の紙袋に入れてもらう。おやつの少ない時代に、子どもたちにとっては大きな楽しみの一つであった。

「やいごめもらい」が始まった時期は、不明とのことであるが、明治時代には行われ、戦時中は中断されたが、昭和30年過ぎに字の総会で復活が決まったという。そして、少しずつ形を変えながら現在も続いているのである。

現在、「やいごめもらい」に参加するのは、3歳以上小学校6年生までの子どもである。3歳以上という条件になったのは平成元年



公会堂には住民が集っている写真が所狭しと飾られている。



「やいごめもらい」の様子

(1989) からである。

新緑眩しい5月5日の子どもの日の朝7時30分に、子どもたちは農事作業所前に集まる。担当するのは子ども会の役員さんたちである。

そして、列になってスタートし、各家を「おはようございます」と言って訪問する。準備されたお菓子をいただき「ありがとうございます」とお礼を言って、全世帯を周るのである。

各家では、子どもたちの訪問を受け、1人100円程度のお菓子を渡す。

町内の子どもたちと顔を合わせる機会も少なくなってきた。「やいごめもらい」で子どもたちが訪問してくれると、町内の子どもたちの顔と名前が分かる機会となっている。

平阪町の子どもたちの10年間の成長を年に1回見ることができる大切な機会でもある。

3. 人を大切に想う

コロナ禍の令和2年(2020)は、子どもたちはマスク着用で「やいごめもらい」に周った。

「子どもたちの表情が分からなくて少し残念でした」と民生委員・児童委員の奥川正己さんは話す。

実は、戦時中以外でも、「やいごめもらい」を中断した時があった。

しかし、近年は、分家などがあったことから、毎年10人以上が参加するにぎやかな年中行事となっている。

「元旦のつどい」で、平阪町の方々が毎年元旦に顔を合わせ、春には「やいごめもらい」で子どもたちの健やかな成長を喜ぶ。「人」を大切に想う平阪町の尊い営みである。